

受験番号	
氏名	

※問題用紙は6ページあります。解答はすべて解答用紙の所定欄に記入してください。文字はていねいに書くこと。

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

①わたしたちは裸眼で世界を見ているつもりになっているが、じつはいつもあるフレームワークのなかで見ている。言葉で世界を分節し、一定の概念の枠に沿って分節されたものを関係づけつつ、ものごとを経験し、思考している。この眼鏡はたえず調整され、ときに別の眼鏡に取り換えられることはあっても、眼鏡というものを外すことはできない。眼鏡を外しては見られないのであるから、その眼鏡の精度を、を通して見られるもの(世界)を基準にして測ることはできない。眼鏡をはめたままその精度を測るほかないのである。

②精度を高めるためには、を通して見える世界にたえず問いかけてゆかねばならない。そしてそれが正しく見えているのか、問いたださなければならぬ。

③では、どこに目をつけたらよいのか。世界のその見えが歪んでいるところ、ぶれているところ、他の見えと整合しないところ、人によって異なっているところ、均衡を失って崩れかけているところ。(①)矛盾が露呈するところ、論理が破綻するところ、どうにも説明がつかないところ。事象と理解のフレームワークとが軋みだしているところ。(②)事象の構造が想像もつかないところにずれだしている気配、思考の気流の変化……。なにか途轍もない地殻変動が起こりそうな気配を取り逃さないこと。そう、そのためにうまくあたりをつけること、勘所を押さえること、ちよつとしたサインを見逃さないこと、好機を逃さないこと、全体に目を漂わせること。(③)、感度のよいアンテナを張りめぐらせて、全体に目をくばり、世界のなかの、微細ではあるが経験を地盤ごと揺るがそうと息をひそめているものへの感度を高めること。(④)そこから問うべき問いを見つけること、そういうセンスを身につけなければ事は始まらない。

④「現場」の、一点からは見通しえない動的な全体にたえずまなざしを漂わせていること、これは台所に立つたときの感覚に似ている。ありあわせの材料で献立を考えること、料理が冷めないようにどう工夫するか、片づけを調理のあいだにどううまく嵌め込むか、洗い物はいつするか、食器をどう収納するか、それに要不要の判断、材料費のやりくり、そしてその間も家族の様子をそれとなく窺うこと。そういうふうにもまわりに眼をくばり、勘所を外すことなく、不定型にうごめく全体をケアしつづけること、そしてそこから考えるべきこと、直すべきことを取り出すこと。哲学でいえば、フィールドワークのさなかで問題を析出すること、そしてそれに応じうる概念を創造すること。じつに哲学は台所仕事に通じている。

⑤こうしたまなざしのくばり方を、《哲学のセンス》と呼んでみたい。「現場」に「哲学を発見する」こうしたセンス、なんなら視力ないし技法と呼んでもいいが、(⑤)、日本のこれまでの哲学教育は開発しよう

とはしてこなかった。いうまでもなく、こういうセンスを磨いておかなければ、中等教育、なかでも高等学校での公民科の「倫理」や「現代社会」の授業で、具体的な事例に当たって「考える練習をさせる」ことなど、できない相談であるのに、である。そしてこの背景には、日本の哲学研究が中等教育での哲学教育の必要を課題としてまともに受けとめてこなかったということがある。

⑥哲学にかぎらず、一般に科学研究に従事しているときに、研究者はたしかに未開拓の問題領域に敏感であるにしても、^⑩その未知のことからは、既定の理論の枠組のなかで未知であるにすぎない。科学は仮説を立て、観察と検証を積み重ねるなかで進化してゆくのだが、そうしたなかでこれまでの理論の枠組ではどうしても説明できない現象がいくつか現われてくることがある。それらを説明するためには、これまで研究を主導してきた概念のフレームワークをぐっと広げるか、それでも無理ならそのフレームワークを根本から組み換える必要がある。じつさい、これまでの科学の歴史を見ればわかるように、歴史に残る発見というものは、それまでの研究が立脚してきた理論の枠組をしばしば根底から揺るがし、組み換えるようなものであった。そうだとすると、科学研究においては、既存の枠組のなかでは説明できない現象、既成の枠組のなかではあまり価値を認められていない現象、いやそもそも問題としてすら意識されない現象に対する（A）を十分にもっているかどうか、その進化にとつてはきわめて重要だということになる。

⑦これは個別の科学研究のプロセスのみならず、それら諸科学の概念枠組そのもの、つまりは^⑪世界理解のフレームワーク一般について論じる哲学の思考そのものについてこそいわねばならないことである。哲学の思考においてこそ、そう、狩猟民族が数キロメートル離れた地点での自然環境の微細な変化に的確に感応するのとおなじような仕方で、同時代の社会の、微細だけれども（B）な変化を感知するセンスをもつということがきわめて重要である。そしてそうした感受性の作法は、なによりもまず、内的な（C）論理を緻密にたどるという要請に忠実であるのとおなじだけ、他なるものとの接触によって非決定的に偶然的に生成する事象に忠実であろうとする。「観念は生き物であつて、鮮度を失わずに^{まないた}俎の上にのせるにはある職人的熟練を要する」という、先にもちらつと引いた中井久夫の言葉が、それをなにより雄弁に語っていた。

⑧そういう探究の「職人的熟練」、つまりは狩猟民族的な感受性については、かつてカルロ・ギンズブルグが「セレンディピティ (serendipity) による知」として取り上げていた。ギンズブルグによれば、十九世紀の末頃に人間科学の領域で「症候学に基礎を置いた推論的範例」ともいうべき認識論的モデルが多方面で同時的に^⑫フジョウウしてきた。彼がそのもつとも象徴的な事例として最初に挙げたのは、ジョヴァンニ・モレッリが一八七〇年代に絵画の作者鑑定の方法として提案したメソッドである。モレッリが絵画の^⑬シンガン、作者鑑定のために注目するのは、画家が属している流派の様式といった人目につく特徴ではなく、耳たぶや爪や手足の指の形、あるいはもつれた髪や^{ひだ}襷の多い布といった「見過ごししやすい細部」であった。それらは、不用意に「手早く描かれた部分、すなわち現実を写そうとしなかった部分」、つまりは「実際にいかにあるべきかよりも、画家の想像力と的確な技量により描かれる」部分であつて、そういう「（D）な努力の最も弱い部分」にこそ個性が見出されるという逆説がそこにはある。こうした知が、ヨーロッパで十九世紀の末頃に^⑭ヘイコウテクに現われたという。言い間違い、失錯行為に着目するフロイトの症候分析、泥の上の足跡や煙草の灰、（ここでもやはり）耳たぶなどに犯罪解明の手がかりを見つけるコナン・ドイルの探偵シャーロック・ホームズ、それに前世紀に広がった筆跡鑑定学や観相学、そしてなにより病跡や症状から診断する症候学、さらには植物

採集では新種をめざとく見つける勘などなど。些細なもの、取るに足りないもの、調べ上げたあげくの「観察の残り滓」を、何かを暗示するものとして、つまり徴候や痕跡として読む術である。隠れたものを発見する術としてのこのような徴候による知、つまりセレンディピティが「医師、歴史家、政治家から、壺職人、大工、水夫、狩人、漁師、女にまで及んでいる」とギンズブルグはいうのだ。そして思想や文学におけるアフォリズム的な表現——（E）叙述の対極にあるもの——もまた「元来兆候やきざしをもとにして人間や社会を判断する試み」と解することができる、と。ちなみにロングマン現代英語辞典は、セレンディピティを「偶然の発見に格別の意味と価値を見いだす自然的能力」と説明している。

⑨セレンディピティと名づけられたこの^⑩徴候的な知は、そもそもが「人間の知的活動の最古の形態」といえるものであつて、ギンズブルグは新石器時代の狩猟民族のそれにふれ、次のように述べる。——「人は何千年もの間、狩人だった。そしていくたびも獲物を追跡するうちに、泥に刻まれた足跡や、折れた枝、糞の散らばりぐあい、一房の体毛、からまりあつた羽毛、かすかに残る臭いなどから、獲物の姿や動きを推測することを学んだ。人は絹糸のように微細な痕跡を嗅ぎつけ、記録し、解釈し、分類することを覚えた。人は密林のしげみや、畏でいっぱい林間の空き地で、こうした複雑な精神作業を一瞬のうちにこなすようになったのである」（『神話・寓意・徴候』一九八六年）。こうした知は、のちの「神々が石や空に書き残した伝言を読み取る」とするバビロニアの占い師」にも通じるものであつて、「両者とも、直接確認できない出来事の痕跡を発見するために、最下級ともおもえる現実を細かく探る。狩人の場合、それは糞、足跡、毛、羽毛などであり、占いの場合は動物の内臓、水面の油、天体、身体の不随意な動きなどである」と、ギンズブルグはいう。

（鷲田清一『哲学の使い方』岩波新書より。ただし、出題のために一部改変した部分がある。）

問一 傍線部①～⑤の漢字と同じ漢字を含むものを次の中から一つずつ選び数字で答えなさい。

① フジョウ

- | | |
|-----------------|-------------|
| 1 宗教的にフジョウな食べ物。 | 2 フヘンテキな制度。 |
| 3 景気をフヨウする政策。 | 4 フウフ水入らず。 |
| 5 税金のフタンが大きい。 | |

② シンガン

- | | |
|---------------|--------------|
| 1 シンジツは一つだ。 | 2 シンリガクを学ぶ。 |
| 3 シンコウシンが強い人。 | 4 シンキカクを考える。 |
| 5 お肌にしントウする。 | |

③ ヘイコウテキ

- | | |
|---------------|--------------------|
| 1 ヘイコウ四辺形。 | 2 レインボーブリッジをヘイサする。 |
| 3 城のヘイ。 | 4 教室を会議室としてヘイヨウする。 |
| 5 ヘイレツ駐車は難しい。 | |

問二 空欄（①）～（⑤）に入る最も適切な言葉を次の中から一つずつ選び記号で答えなさい。

ア 要するに イ あるいは ウ そして エ それをしかし オ さらには

問三 空欄A～Eに入る最も適切な言葉を次の中から一つずつ選び記号で答えなさい。

- | | | | | |
|---|-------|-------|-------|-------|
| A | ア 感受性 | イ 論理性 | ウ 柔軟性 | エ 合理性 |
| B | ア 世界的 | イ 潜在的 | ウ 根底的 | エ 抽象的 |
| C | ア 普遍的 | イ 運命的 | ウ 偶然的 | エ 必然的 |
| D | ア 独創的 | イ 個性的 | ウ 具体的 | エ 合理的 |
| E | ア 断章的 | イ 体系的 | ウ 総合的 | エ 分析的 |

問四 傍線部④「眼鏡をはめたままその精度を測るほかないのである」とは、どういうことか。次の中から最も適切なものを一つ選び記号で答えなさい。

- ア 世界から受けた影響からくる価値観を常に正邪や善悪の基準から見直していくしかないということ。
- イ 生まれた国に支配的な世論を受け入れながらそれに対して常に少数派の立場から問いを発していくしかないこと。
- ウ 自らが身に付けた概念装置をもとに世界を見てその見え方を絶えず検討していくほかないということ。
- エ その時代の社会の風潮をもとに身に付けた感性を自分なりに研ぎ澄ましていくしかないということ。

問五 傍線部⑤「センス」とあるが、具体的にはどういうセンスか。この具体例として不適切なものを次の中から一つ選び記号で答えなさい。

- ア 男女平等の社会であるはずなのに、実際は企業の取締役や管理職に男性が多いことに疑問を感じるセンス。
- イ 社会の高齢化が進み、このままでは年金や健康保険などの社会制度に大きな問題が生じると感じるセンス。
- ウ スマートフォンの普及によつて、人間のコミュニケーションのあり方が根本的に変わってしまうかもしれないと感じるセンス。
- エ 電車のシルバーシートに座って席を高齢者に譲らない中年男性に、憤りを感じ注意したくなるというセンス。

問六 傍線部⑥「じつに哲学は台所仕事に通じている」とあるが、これの説明として最も適切なものを次の中から一つ選び記号で答えなさい。

- ア 実際の現場に立ち変化する事態の全体に目を配りながら、常に修正するべき所を見つけること。
- イ 自分の持つ材料や置かれた状況を意識し、常に全体にとって正しいことを判断し行動すること。
- ウ 変化する物事の全体像に冷静なまなざしを漂わせながら、常に根本的なルールを守って判断すること。
- エ フィールドワークの中で現場にあるものを活かしつつ、常に身近な人間にとって正しい答えを導くこと。

問七 傍線部⑦「その未知のことからは、既定の理論の枠組のなかで未知であるにすぎない」とあるが、これ

の説明として最も適切なものを次の中から一つ選び記号で答えなさい。

ア 医学での未知のことからは、これまでの医学における研究成果の中でわかったこと以外のことであり、さらなる革新的な研究成果によって知られる可能性もあるということ。

イ 天文学での未知のことからは、これまでの望遠鏡などの観測器具の性能の中で知られていないだけであり、新たな観測器具の開発により知られる余地が残されているということ。

ウ 気象学での未知のことからは、これまでの地球環境に対する研究をもとにした理論の中で知られていないことであり、今後地球温暖化等が進めばさらに未知の部分が広がるということ。

エ 物理学での未知のことからは、物理学がこれまで考えてきた法則や理論の枠組みの中でのみ知られていないことであり、その枠組み自体を考え直せば答えがでるかもしれないこと。

問八 傍線部㉔「世界理解のフレームワーク」とあるが、これを持つ前の段階を比喩的に表現した一語を本文中から抜き出しなさい。

問九 傍線部㉕「徴候的な知」とあるが、具体的にはどういう知か。これの具体例として最も適切なものを次の中から一つ選び記号で答えなさい。

ア 絵画の色の使い方からその絵画の作者とその価格を特定するように、経済的な価値を素早く正確に鑑定する知。

イ 草の倒れ具合からその場所を熊が通ったことを推理するように、一見なんでもないヒントを見逃さない知。

ウ 偶然見つけたタバコの吸い殻から凶悪な犯人を見つけるように、卓越した論理的推理によって答えを導く知。

エ ちよつとした咳から難病を発見する医師のように、天賦の才能と正確な知識によって困難を乗り越える知。

問十 次の文章はある段落の最後に入る。どの段落の後ろに入るか。段落番号①～⑨の中から一つ選び数字で答えなさい。

どのような問いを世界に向けるか、どのような問いをおのれに対して立てるかということが、世界の探究とおのれの視線の検証とには死活的に重要である。

問十一 本文の内容に合致するものを次の中から一つ選び記号で答えなさい。

ア 私たちはそのまま世界を直に見ることは出来ず、自分の母語である言語によって分節化した上で物事を経験し思考しているので、外国語の世界の見方を身に付けることは不可能である。

イ 《哲学のセンス》とは、現場に「哲学を発見する」センスであるが、これは中井久夫の言う「職人的熟練」が必要なものだったので、日本の中等教育では身に付けられなかった。

ウ これまでの理論の枠組みではどうしても説明できない現象が現れた時、それを組み換えるヒントとなる些細な現象を見つける能力が哲学の思考には必要である。

エ 石器時代の狩猟民族は、いくたびも獲物を追跡するにつれそのわずかな痕跡を見つけ、それを記録し解釈し分類することを身に付け、それにより理性的な知性を身に付けた。

二 次の問いに答えなさい。

問一 次のことわざ・慣用句の使い方として正しいものには○、誤っているものには×をつけなさい。

- 1 彼は余命を告知されて色を失った。
- 2 あいつとは気の置けない関係なので、油断することができない。
- 3 なんとか説得しようと手をこまねいて準備している。
- 4 彼は、入試問題の字数制限を見逃してしまったことに気づき、ほぞを噛んだ。
- 5 せっかくラグビーの話で盛り上がっているのに、流れに棹さおをさすなよ。

問二 次の文章の敬語や表現の使い方として正しいものには○、誤っているものには×をつけなさい。

- 1 医学の難しい話が続いたので、ここで閑話休題してドラマの話しよう。
- 2 (患者へ) 師長が「よろしくお伝えください」と申しておりました。
- 3 (患者の家族へ) 外科部長がいらっしやいました。
- 4 今度の選挙で与党の議席が過半数を越えた。
- 5 私は、あおり運転に対して、憤りを禁じえません。

三 次の傍線部のひらがなを漢字で、漢字をひらがなで書きなさい。

- | | | | |
|---|-----------------------|----|------------------------|
| 1 | たいしょうてきな性格。 | 2 | 葉のへいがいも考えなければ。 |
| 3 | ゲームのこつを <u>会得</u> した。 | 4 | <u>語彙力</u> を上げる必要がある。 |
| 5 | 経済の <u>しんこう</u> をはかる。 | 6 | <u>めんどろ</u> うな仕事を任される。 |
| 7 | <u>希薄</u> な人間関係。 | 8 | 権力を <u>濫用</u> する。 |
| 9 | <u>にんたいり</u> よくがある。 | 10 | 労働者から <u>搾取</u> する。 |